

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-179	14-011	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Publicized sobriety checkpoint programs: a community guide systematic review. 飲酒量検査の有用性について： 系統的文献レビュー		
執筆者		
Bergen G, Pitan A, Qu S, Shults RA, Chattopadhyay SK, Elder RW, Sleet DA, Coleman HL, Compton RP, Nichols JL, Clymer JM, Calvert WB; Community Preventive Services Task Force.		
掲載誌		
Am J Prev Med. 2014 May;46(5):529-39. doi: 10.1016/		
キーワード		PMID
飲酒運転、飲酒量検査		24745644
要 旨		
目的： 飲酒量検査が飲酒運転の減少に有用であるかについての文献レビューを行う。飲酒検査による費用対効果についても検討する。		
方法： 飲酒量検査の有用性について、2000年から2012年に報告された文献レビューを行った。アルコール呼気検査によって評価した報告14件について検討した。		
結果： 飲酒量検査と飲酒運転による事故致死率について評価した報告10件において、飲酒量検査は事故致死率をおよそ8.8%（中央値）（四分位範囲: -16.5%,-3.5%）減少させていた。費用対効果について評価した報告5件において、飲酒量検査の費用対効果は2:1（（効果：費用）から57:1であった。		
結論： 多くの報告において飲酒量検査は事故致死率の減少等、有用であることが強く示された。また、経済的観点からも飲酒量検査が有用であることが示された。		